（ 続紙 1 ）

| 京都大学 | 博士（地域研究） | 氏名 | Eunji Choi |
|---|---|---|---|
| 論文題目 | Weaving the Networks of In/formality in African Urban Transport: Ethnography of *Tera Askebari* in Addis Ababa<br>（アフリカ都市交通のフォーマルとインフォーマルの関係を紡ぐ<br>―アディスアベバのミニバス乗り場で働く人々の民族誌―） | | |

（論文内容の要旨）

1980年代以降、アフリカの都市化は急速に進み、公共交通機関の必要性が高まった。しかし、その整備は十分でなく、民間の個人が運行する小型バスやミニバスによるパラトランジット（準公共交通機関）が台頭した。現在パラトランジットは、アフリカの都市全体で約70～90％の移動手段を提供し重要な役割を担っているにもかかわらず、従事する労働者は「インフォーマル」な雇用労働環境にあり、法的な規制に違反して運営されている場合も多い。

エチオピアの首都アディスアベバには、ミニバスが主要な公共交通機関として利用されているなかで、ターミナル（乗降場所）においてミニバスや乗客の流れをコントロールするテラ・アスケバリという人びとがいる。テラ・アスケバリは当初、インフォーマルな仕事として始められたが、2011年に中小企業(MSE)開発庁が介入した後、ほとんどのグループが法的地位を獲得した。しかし、彼らの雇用やミニバスの管理などにはインフォーマルな側面は依然として残っていた。そのため、テラ・アスケバリの活動は、学術的にも社会的にも否定的に捉えられ、社会における彼らの役割や貢献はほとんど明らかにされてこなかった。

本論文は、テラ・アスケバリがアディスアベバの都市交通において果たす重要な役割と、時には強かな振る舞いを見せながらフォーマルとインフォーマルが共存するような社会へ貢献する有様を、彼らの実践を観察することによって解明したものである。本論文は、テラ・アスケバリとはどのような人びとで、どのようにして都市交通部門における重要な存在になったのか、彼らの役割は何であり、政府の政策の影響下でどのように事業を行っているのか、そして彼らが直面した課題と、それに対処するためにどのような戦略を立てるか、という問いに答えている。

第1章は、目的、方法論、調査地の概要とともに、本論文の全体像が示されている。32のターミナルでインタビューと参与観察を行い、アディスアベバのテラ・アスケバリ成立の歴史的背景を解明することを目指した後、市の東部にある主要なターミナルで詳細な定点調査を実施している。

第2章は、研究テーマに関連する文献レビューである。インフォーマル経済、アフリカの交通機関の労働者、アディスアベバの公共交通機関、アディスアベバのテラ・アスケバリに関する議論の4つの部分に大別して整理している。

第3章では、MSE開発庁が介入する前のアディスアベバにおけるテラ・アスケバリの形成の歴史的プロセスについて論じている。テラ・アスケバリが、ストリートギャングの結成、エリトリアーエチオピア戦争の退役軍人の参入、ガッシュ・アベラ・モラという人物のはじめた社会美化プロジェクト、そして都市開発下でのテラ・アスケバリの成長と台頭という4つのプロセスを通じて発展してきたことを明らかにしている。

第4章では、MSE政策の影響を受けているテラ・アスケバリの現在の経営活動に焦点を当て、MSEプログラムが、小規模企業の事業運営において大きな自律性を許しており、この条件が現在のテラ・アスケバリの仕事に少なからず影響を与えていることを示した。テラ・アスケバリがフォーマルとインフォーマルの両者の性質を兼ね備えるという利点を活用し、テラ・アスケバリの幹部に利益をもたらすだけでなく、都市部の失業中の若者にも新たな就業の機会をもたらしていることを見出した。

第5章では、ターミナルXで雇用されて働く若年層のテラ・アスケバリたち（YB）の生計と対処戦略を観察した結果を示している。YBのほとんどはエチオピア南部地方からの移入者であり、主にハディヤ、ウォライタ、グラゲの各民族から構成されている。彼らの大半がグルド・ショラと呼ばれる移民向けの住居に住んでいた元YBたちに勧誘された。インフォーマルな雇用が不安定な状況下で、YBたちはターミナルを継続的に訪れ、他の交通労働者と頻繁に連絡を取り合うことで、多様な仕事の機会を求めていることを明らかにしている。

第6章は、ミニバスや乗客に対するテラ・アスケバリの仕事ぶりを観察することにより、彼らの社会的役割と社会への貢献を明らかにすることを目的に、テラ・アスケバリの活動、言語の使用法、および乗客の認識について分析している。

第7章では、まとめと包括的な議論を行っている。結論として、パラトランジット従事者としてのYBが求職活動を通じて、不安定な都市の労働市場に対処するための高い適応性と実行力をもっていること、また、テラ・アスケバリが、時には違法行為をおこなう強かな面をもちながらも、ターミナルの治安を維持している主要なエージェントであり、フォーマルとインフォーマルの両方の性質を兼ね備える複合的な特徴を利用して生活戦略を描くバレムヤ（強かな戦略家）であることを指摘している。